

「食の安全・安心を求めた作物づくり」



中西 宏太郎さん

【出身地】福島県

【就農前の仕事】自動車整備士

【就農地】高島町

【就農年度】令和元年度

【経営概要】

雑穀80a (うるち米・もち粟・きび・キヌア)

枝豆60a かぼちゃ15a 野菜

10a (人参・スイスチャード・じゃがいも
・さつまいも・つるなしインゲン・空心菜)

震災で家族が福島県から南陽市に避難し、しばらくは週末だけ山形県に通う生活をしていました。家族との今後の生活を考えたときに、福島から移住し山形県で農業をしよう、と決心し、高島町の農業法人で1年間研修を受けました。

日本の生産量が少なく手に入りにくいこと、妻が雑穀の料理教室をしていたこともあり、雑穀を栽培することにしました。また、改めて食の安全・安心について考えた結果、農薬や化学肥料を使わないことに決めました。

実際に就農してみて、畑仕事が好きなこともあり、農作業に辛さを感じません。農薬や化学肥料を使わない栽培は、手間がかかる分、細部まで見ることができ、そこに面白みを感じています。収穫した作物はSNSでの販売でほぼ完売し、口コミで好評を得ていることも、自信とやる気に繋がっています。

資金面では課題が多く、2年間研修していたら生活が厳しいと思い研修1年で就農しました。現在は国の5年間の交付金制度を利用していますが、就農3年目の今年が正念場だと考えています。

今後は雑穀栽培を安定させて他の作物を拡大し、収入を増やしたいです。また、そのためにも今の面積で収量を上げられるように、努力していきたいと思っています。

< これから就農を目指す人へのアドバイス >

農業の技術を習得することはもちろん大切ですが、まずは売り先の確保が重要です。

作りたい、という意欲だけでなく、作ったものを売る場所を見つけておくことで就農後の経営も安定します。